

予防接種について

《ジフテリア・破傷風第2期予防接種》

(平成26年4月1日現在)

ジフテリア (Diphtheria)

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。1981年に現在使われているジフテリア百日せき破傷風(DPT)ワクチンが導入され、現在では患者発生数は年間0~1名程度です。

しかし、ジフテリアは感染しても10%程度の人に症状が出るだけで、残りの人は症状が出ない保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。感染は主にのどですが、鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐(おうと)などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病2~3週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあるため、注意が必要です。

破傷風(Tetanus)

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、口が開かなくなったり、けいれんを起こしたり、治療が遅れると死亡することもあります。患者の半数は本人や周りの人では気づかない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。また、お母さんが抵抗力(免疫)をもっていれば出産時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。

接種方法

ジフテリアトキソイド及び破傷風トキソイドを混合した不活化ワクチン(沈降精製ジフテリア破傷風混合トキソイド(DT))を、1回(0.1ml)皮下接種します。

* 通知書兼予防接種券(裏面:予診票)、母子健康手帳を持参のうえ、金沢市の予防接種協力医療機関で接種して下さい。(要予約)

周知方法 個別通知 接種場所 予防接種協力医療機関 接種時期 通年

◆他の予防接種との接種間隔◆

生ワクチンを接種した日の翌日から起算して、別の種類の接種を行うまでの間隔は、27日以上あけます。
不活化ワクチンを接種した日の翌日から起算して、別の種類の接種を行うまでの間隔は、6日以上あけます。

ジフテリア・破傷風第2期予防接種の目的

ジフテリア・破傷風第2期予防接種は、乳幼児の時に接種した3種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風)予防接種第1期により基礎免疫ができていない方に対して、免疫を高めることを目的としています。

そのため、3種混合予防接種が不完全であれば、今回の1回の接種だけでは効果は期待できません。

第1期が未接種の方、不完全の方は医療機関へご相談ください。基礎免疫を確立するため、医師とご相談の上、追加接種されることをお勧めします。

| | | | | |
|-------------------------------|----------------------------------|-----|------------------|-------------------------------|
| ジフテリア(D) 百日せき(P) 破傷風(T) | 3種混合予防接種 (DPT) | 第1期 | 初回(3回) 追加(1回) | 7歳6か月の前日まで |
| | 第1期で合計3回接種を受けていれば、基礎免疫はあると考えられます | | | |
| | 2種混合予防接種 ジフテリア・破傷風 (DT) | 第2期 | 1回 | 小学6年生対象 (13歳の誕生日の 前日まで) |

第1期が未接種もしくは不完全で、追加接種される方は、**今回(1回)以外の接種は、任意の接種です**ので有料となります。

ジフテリア破傷風2種混合ワクチン(DT)の副反応

注射部分の発赤・腫脹(はれ)、硬結(しこり)などの局所反応が主で、7日目までに約31.5%認められます。なお、硬結(しこり)は少しずつ小さくなりますが、数ヶ月残ることがあります。特に過敏な方で肘をこえて上腕全体がはれた例がまれにあります。

通常高熱は出ませんが、接種後24時間以内に37.5℃以上になった子が約0.1%あります。重い副反応はなくても、機嫌が悪くなったり、はれが目立つときなどには医師に相談してください。

接種有効期限は13歳の誕生日の前日までです。

※中学校に入学すると、勉強や部活動で忙しくなり、接種の機会を逃す方も少なくありません。できるだけ早めに受けましょう。